

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	青山製図専門学校
設置者名	学校法人 鹿光学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
製図専門課程 (工業)	建築工学科 (3年制)	夜・通信	3,432 時間	80×3 = 240 時間	
	建築設計デザイン科 (建築デザインコース) (2年制)	夜・通信	2,278 時間	80×2 = 160 時間	
	築設計デザイン科 (環境デザインコース) (2年制)	夜・通信	2,278 時間	80×2 = 160 時間	
	住宅設計デザイン科 (2年制)	夜・通信	2,278 時間	80×2 = 160 時間	
	建築インテリア工学科	夜・通信	3,464 時間	80×3 = 240 時間	
	商空間デザイン科 (2年制)	夜・通信	2,330 時間	80×2 = 160 時間	
	建築インテリアデザイン科 (2年制)	夜・通信	2,298 時間	80×2 = 160 時間	
	建築科 (2年制)	夜・通信	1,892 時間	45×2 = 90 時間	
	インテリア工学科 (2年制)	夜・通信	1,904 時間	45×2 = 90 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関する記述有。 (掲載： https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	青山製図専門学校
設置者名	学校法人鹿光学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公開している。
(掲載：<https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長・ 社会福祉法人理事長	2019.5.30～ 2021.5.29	教育・福祉にわたる 社会活動の観点か らの助言
非常勤	元建設会社専務取締役	2019.5.30～ 2021.5.29	建築業界、実業界活 動の経験をもとに 職業人養成教育に ついての助言
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	青山製図専門学校 (建築工学科 昼間部(3年制)、建築設計デザイン科(建築デザインコース)昼間部(2年制)、建築設計デザイン科(環境デザインコース)昼間部(2年制)、住宅設計デザイン科 昼間部(2年制)、建築インテリア工学科 昼間部(3年制)、商空間デザイン科 昼間部(2年制)、建築インテリアデザイン科 昼間部(2年制)、建築科 夜間部(2年制)、インテリア工学科 夜間部(2年制))
設置者名	学校法人鹿光学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(建築工学科 昼間部(3年制)、建築設計デザイン科(建築デザインコース)昼間部(2年制)、建築設計デザイン科(環境デザインコース)昼間部(2年制)、住宅設計デザイン科 昼間部(2年制)、建築インテリア工学科 昼間部(3年制)、商空間デザイン科 昼間部(2年制)、建築インテリアデザイン科 昼間部(2年制)、建築科 夜間部(2年制)、インテリア工学科 夜間部(2年制))</p> <p>【作成について】</p> <p>全ての科目の授業計画(シラバス)については、毎年度、学部内において次年度の授業科目の設定および講義内容の検討をする。その際に、当年度の反省・改善等の検証作業を必ず行う。その結果を基に、各授業を担当する教員及び学科長を中心に、翌年度のシラバスを作成する。</p> <p>また、学内の規則(シラバス作成の方法と、それに基づいて作成されたサンプル用シラバスを参考)として、授業科目名、取得単位・時間、担当教員、実務経験者である教員の担当科目であるかの表記、授業の到達目標、授業概要、授業計画(各回の授業プラン)、成績評価方法等に関する事項は、全科目共通で記載することが必須となっており、学内統一様式でシラバス作成を行っている。</p> <p>【時期について】</p> <p>翌年度の講義予定(授業計画)は、12月～1月の間に学部内の会議において検討・検証される。この結果を受けて、2月中旬に各担当教員と学科長を中心にシラバスを作成する。3月初旬に開催される、校長・理事長以下部長クラスで構成される会議において、承認されることで正式決定する。3月中旬に、翌年度分のシラバスをHP上に公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	掲載： https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

以下に示す教務規程（第14条）において、学内の成績評価、履修、進級・卒業要件について規定している。各学科で定める授業科目の試験等（レポート、小テスト、出欠席、就学態度等を考慮）により成績評価を行っている。

(学業成績の評価並びに進級・卒業の認定に関する規程)

第14条 この規程は、本校における成績の評価並びに進級及び卒業の認定について定める。

- 1項 進級・卒業の認定は校長が行う。
- 2項 成績の評価について、点数は講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、就学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。
- 3項 成績評価は各学期成績と学年成績に区分し、授業科目（以下「科目」という）ごとに評価する。評価は採点表により、指定期日迄に各担任に提出する。学年成績の評価は、各学期の成績を総合して（「教科担当が」削除）決定する。
- 4項 科目の成績は10点法で評価し、5点以上を合格とする。科目の欠席時数（注1）が学校の定める年間（半期で終了する科目は当期）授業時数の1/4を超える科目は、原則として不合格とする。また、日常の課題で製図を不正にトレースした、或いはCAD・パソコンデータを不正にコピーしたと判明した場合は、原則、当該科目成績は0点とし、当該課題は未提出課題として数える。

（注1）各科目における遅刻・早退は、教科担当の裁量により出席または欠席時数の取り扱いを行う。教科担当者は、各期の成績報告書に出欠状況を付記する。
- 5項 担任は、前期のクラス成績一覧表及び各教科欠時一覧表を作成する。学年末には、前期・後期総合成績一覧表及び各教科欠時一覧表を作成する。
（成績一覧表は10点法及び5段階〔SABCD〕評価の二通りで作成する）
- 6項 成績の評定・評価の区分は表－1による。

表－1 成績評価

評価	点数	合否	指標	単位	GP
S	10	合	4	各科目で定められた単位数 (シラバス等参照)	点数×単位数
	9	合			
A	8	合	3		
B	7	合	2		
	6	合			
C	5	合	1		
D	4	否	0		
	3	否			
	2	否			
	1	否			

※GP とは GPA の算出に用いられるポイントで、科目ごとに算出するポイントの事。

※GPT とは GPA の算出に用いられるポイントで、全科目の GP の合計ポイント。

※GPA とは履修した科目の GP の平均ポイントのこと。以下の式で算出される。

(GPA の算出方法)

科目ごとの GP (点数×単位数) の総合計=GPT ÷ 総履修単位数 (不合格科目も含む)

7項 進級・卒業の認定は、表－2 に示す認定基準による。

表－2 認定基準

項目	進級	卒業	備考
欠席総日数	昼間部 20日以内	左に同じ	遅刻・早退等の 換算日数を含む
	夜間部 30日以内		
科目評価	合格	左に同じ	日常の授業態度等 を加味した評価。
課題	全課題提出完了 合格	左に同じ	
学費	完納	左に同じ	
進級・卒業 制作課題	合格	左に同じ	

※欠席総日数の内、次の事由による場合は考慮する。

- ・災害などの不可抗力により出席できない旨届出があり、正当と認めた場合。
- ・病気欠席により、5日以上長期に及ぶ場合で、理由書、診断書等の提出がなされた場合。
- ・夜間部では、勤務先に於ける業務都合により長期出張など予め届出があり校長が認めた場合。
- ・その他、校長が正当と認めた場合。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本校では2019年度より、教務規定第14条において、GPA(Grade Point Average) 制度を導入し、学内の成績評価として使用する。GPAは学生の履修した1単位あたりの平均成績を指す。当校では、就職の学内推薦枠の候補者選定や、独自特待生奨学金、学業優秀者の表彰候補者選出などに活用する。(※GPAによる成績の分布状況の把握の参考のために、昨年度1学年を対象にGPA制度に準拠した成績分布を作成し、本校ホームページ上で公表したが、2019年度以降は毎年度、本校GPA制度に準拠した全学科の成績の分布状況を公表する。)

学業成績は、科目ごとに授業到達目標を定めた、ルーブリック(学習成果水準)を作成する。ルーブリックを活用することによって講義科目と実技科目の両科目において、学生の学習成果の到達度を適正に数値化することが出来ると考えている。また、評価には担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。各授業の評価は10点満点を基準として、5点以上を合格としている。合格者の中でも、評価点数により10~9をS、8をA、7~6をB、5をCとして換算し、学生に成績が通知される。

GPAは以下のように算出する。

科目ごとのGP(点数×単位数)の総合計÷総履修単位数(不合格科目も含む)

この成績評価の内容及び方法は、本校ホームページ上の「成績評価基準及びGPA制度について」で公表している。その他、入学時ガイダンス、ホームルームなどで入学生及び在學生に通知している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

掲載：<https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校は実践的技術力と知性・感性豊かな創造性を兼備えた実務能力を養い、基礎教育と実技主体の実践教育を通して専門教育を徹底し、豊かな人間性に富んだ社会人を育成することを目標としている。

卒業要件については、各学科が定める所定の全授業科目を所定の年次に全て合格することなどを定めている。詳細についてはディプロマ・ポリシーをはじめ、教務規定、学生便覧などに記載している。

当校では「ディプロマポリシー(修了認定の方針)」及び「単位授与・履修認定(進級・卒業認定)について」を策定し、HPに公表している。

上記の基準に則り、校長、副校長、学部長、科長、担任などで構成される成績会議において、卒業・進級の認定を適正かつ厳格に実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

掲載：<https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本校ホームページ上で公表している。

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法： ） （概要）
卒業の認定に関する方針（公表方法： ） （概要）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： ） （概要）
入学者の受入れに関する方針（公表方法： ） （概要）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	人	—					人
—	—	人	人	人	人	人	人
—	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		人					人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
	人	人	%	人	人	%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	人	人	%	人	人	%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
学部名	学科名	卒業に必要なとなる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要)
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要)
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要)

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	青山製図専門学校
設置者名	学校法人鹿光学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月下旬に最新情報をHPにて公開 https://www.aoyamaseizu.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間 部	3,466 単位時間/ 146 単位	1228 単位時間 /75 単位	264 単位 時間/8 単 位	34 単位時 間/1 単位	34 単位時 間/1 単位	1906 単位 時間/61 単位
	単位時間/単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		82人	8人	9人	8人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。</p> <p>また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27人 (100%)	22人 (81.5%)	4人 (14.8%)	1人 (3.7%)
(主な就職、業界等)			
毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおよそ半々である。その主な企業は清水建設(株)・(株)住友不動産・須賀工業(株)・(株)梓設計などである。			
(就職指導内容)			
本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
在学中の取得を目指す資格は、福祉住環境コーディネーターと商業施設士補などである。前者は30.4%、後者は100%であった。			
(備考) (任意記載事項)			
卒業生の80%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が2級建築士を取得する。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
90人	5人	5.6%
(中途退学の主な理由)		
退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、週1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、		

学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築設計デザイン科 (建築デザインコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 部	2,312 単位時間／98 単位	926 単位時間 /56 単位	264 単位 時間/8 単 位	34 単位時 間/1 単位	34 単位時 間/1 単位	1054 単位 時間/32 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		68 人の内 32 人	2 人	10 人	9 人	19 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	26人 (92.9%)	2人 (7.1%)	0人 (0.0%)
<p>（主な就職、業界等） 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は清水建設（株）・（株）住友不動産・須賀工業（株）・（株）梓設計などである。</p>			
<p>（就職指導内容） 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 在学中の取得を目指す資格は、福祉住環境コーディネーターと商業施設士補などである。前者は58.％、後者は100%であった。</p>			
<p>（備考）（任意記載事項） 卒業生の90%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が2級建築士を取得する。</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66人	5人	7.6%
<p>（中途退学の主な理由） 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、週1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業分野	製図専門課程 （工業）	建築設計デザイン科 （環境デザインコース）	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習

2年	昼間部	2,312 単位時間／ 103 単位	1124 単位時間 /68 単位	230 単位 時間/7 単 位	34 単位時 間/1 単位	34 単位時 間/1 単位	890 単位 時間/26 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	68 人の内 36 人	0 人	7 人	9 人	16 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35 人 (100%)	29 人 (82.9%)	4 人 (11.4%)	2 人 (5.7%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ 100% の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおよそ半々である。その主な企業は清水建設 (株) ・ (株) 住友不動産・須賀工業 (株) ・ (株) 梓設計などである。			

(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、福祉住環境コーディネーターと商業施設士補などである。前者は58.6%、後者は100%であった。
(備考)(任意記載事項) 卒業生の80%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が2級建築士を取得する。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66人	5人	7.6%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、週1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程(工業)	住宅設計デザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間部		講義	演習	実習	実験	実技
2年		2,312 単位時間/99 単位	958 単位時間/58 単位	360 単位時間/11 単位	34 単位時間/1 単位	34 単位時間/1 単位	926 単位時間/28 単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		58人	1人	9人	7人	16人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照

成績評価の基準・方法 (概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準 (概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等 (概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27人 (100%)	21人 (77.8%)	4人 (14.8%)	2人 (7.4%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は清水建設(株)・(株)住友不動産・須賀工業(株)・(株)梓設計などである。			
(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、福祉住環境コーディネーター、エクステリアプランナーと商業施設士補などである。福祉住環境は62.5%、エクステリアは73.1%、商業施設士補は100%であった。			
(備考) (任意記載事項) 卒業生の75%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が2級建築士を取得する。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

58 人	5 人	8.6%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、週1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築インテリア工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間 部	3,498 単位時間/ 125 単位	646 単位時間 /38 単位	682 単位 時間/21 単位	30 単位時 間/1 単位	30 単位時 間/1 単位	2110 単位 時間/64 単位
	単位時間/単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		79 人	1 人	8 人	8 人	16 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4
学修支援等
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。

また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	20人 (87.0%)	2人 (8.7%)	1人 (4.3%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおよそ半々である。その主な企業は(株)大林デザインパートナーズ・(株)大京リフォームデザイン・ワイケイホーム(株)などである。</p> <p>(就職指導内容)</p> <p>本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。</p> <p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補と商業施設士などである。どちらも受験した学生は全員合格した。</p> <p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>卒業生の85%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が2級建築士を取得する。</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76人	5人	6.6%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。</p> <p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業分野	製図専門課程	商空間デザイン科	○	

		(工業)						
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間 部	2,332 単位時間/83 単位	444 単位時間 /26 単位	0 単位時 間/0 単位	30 単位時 間/1 単位	0 単位時 間/0 単位	1888 単位 時間/57 単位	
			単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60人	57人	6人	5人	4人	9人			

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25人 (100%)	14人 (56.0%)	10人 (40.0%)	1人 (4.0%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおよそ半々である。その主な企業は(株)大林デザインパートナーズ・大京リフォームデザイン(株)・(株)ワイケイホームなどである。			
(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中			

心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補と商業施設士などである。どちらも受験した学生は全員合格した。
(備考)(任意記載事項) 卒業生の55%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が2級建築士を取得する。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57人	4人	7.0%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程(工業)	建築インテリアデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間部	2,332 単位時間/87 単位	578 単位時間/34 単位	406 単位時間/12 単位	30 単位時間/1 単位	0 単位時間/0 単位	1318 単位時間/40 単位
	単位時間/単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		73人	3人	9人	5人	14人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法

(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35人 (100%)	25人 (71.4%)	8人 (22.9%)	2人 (5.7%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおよそ半々である。その主な企業は(株)大林デザインパートナーズ・大京リフォームデザイン(株)・(株)ワイケイホームなどである。			
(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシート の書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補などである。受験した学生は全員合格した。			
(備考) (任意記載事項) 卒業生の70%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が2級建築士を取得する。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76人	7人	9.2%

<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。</p>
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。</p>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜間 部	1,892 単位時間／76 単位	814 単位時間 /44 単位	74 単位時 間/2 単位	36 単位時 間/1 単位	36 単位時 間/1 単位	932 単位 時間/28 単位
	単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100 人		85 人	0 人	9 人	7 人	16 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を

心掛けています。
また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28人 (100%)	4人 (14.3%)	2人 (7.1%)	22人 (78.6%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は大和ハウスリフォーム(株)・(株)匠設計コンサルタントなどである。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補などである。受験した学生は全員合格した。</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>卒業生のその他(約80%)は、建築士の資格を取得してからの転職希望である。そのため卒業しても、在学中の仕事を継続する学生である。</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71人	3人	4.2%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業分野	製図専門課程	インテリア工学科	○	

		(工業)						
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	夜間 部	1,904 単位時間／68 単位	494 単位時間 /26 単位	538 単位 時間/17 単位	30 単位時 間/1 単位	0 単位時 間/0 単位	842 単位 時間/24 単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60人	41人	0人	7人	5人	12人			

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ループリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	0人 (0.0%)	8人 (38.1%)	13人 (61.9%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおよそ半々である。その主な企業は(株)藤田建装・(株)ベルソンなどである。			

<p>(就職指導内容)</p> <p>本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。</p>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補などである。受験した学生は全員合格した。</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>卒業生のその他 (約 62%) は、建築士の資格を取得してからの転職希望である。そのため卒業しても、在学中の仕事を継続する学生である。</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	7 人	17.1 %
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月 1 回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
建築工学科 (3年制)	240,000 円	767,000 円	240,440 円	
建築設計デザイン科 (建築デザインコース) (2年制)	240,000 円	767,000 円	240,890 円	
建築設計デザイン科 (建築デザインコース) (2年制)	240,000 円	767,000 円	240,890 円	
建築インテリア工学科 (3年制)	240,000 円	797,000 円	252,800 円	
商空間デザイン科 (2年制)	240,000 円	797,000 円	253,250 円	

建築インテリアデザイン科 (2年制)	240,000円	797,000円	253,250円	
建築科 (2年制)	120,000円	340,000円	99,700円	
インテリア工学科 (2年制)	120,000円	340,000円	99,700円	
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
本校の教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その評価結果に基づき改善を図り、社会にとって必要な人材を育成していくことを目的とする。委員会は年一回の開催とし、委員は関係企業の役職員・本校卒業生で構成される。委員会の内容は報告書としてまとめ、学内の会議やミーティングで周知し、継続的改善を行っていく上で活用していく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
インテリアデザイン・設計管理	2017.9.1～ 2019.8.31	企業役員・卒業生
建築設備・照明デザイン	2017.9.1～ 2019.8.31	企業役員
建造物総合改修	2018.11.1～ 2020.10.31	企業役員・卒業生
総合建設	2018.11.20～ 2020.11.19	企業職員
建築設計	2018.11.1～ 2020.10.31	企業役員
店舗デザイン・住宅設計	2017.9.1～ 2019.8.31	企業役員・卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

<https://www.aoyamaseizu.ac.jp/>